

テーマ：妻に与えられた神様からの責任とは何か？

○夫婦間における妻の責任：夫に従うこと(18)

1. 意味：“従う”とはどういうことか？

「夫を立てることは必要ですが、夫に従う必要はありません。…言いたいことは言うけれど、相手に合わせて柔軟な態度も取れる妻。さらに、柔軟な態度を取ることで、夫に「貸し」をつくり、根っこのところでは優位に立つような駆け引きができる妻が、令和の「夫を立てる妻」です。」

「服従とは、相手を認め、そのリーダーシップの下に自分自身を置くという自発的な意志を示唆するものです。」(ダグラス・ムー)

※ルカ 2:51

「それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。」

2. 理由：“従う”とはどうしてか？

※エペソ 5:22-23

「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」

※創世記 2:18

「神である主は仰せられた。「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」」

「従うことは、救いとともにもたらされる、クリスチャンの献身の問題です。自発的に服従の立場を取ることは、妻と夫との関係の問題ではなく、主との関係の問題です。それは『主にある者にふさわしいこと』なのです。」

3. 具体例：“従う”とはどのようにしてか？

※1 ペテロ 3:1-4

「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」

※ローマ 10:17

「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」

※使徒 5:29

「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。人に従うより、神に従うべきです。」

4. 動力：“従う”とはどこに力を見出すか？

※1 ペテロ 2:21-24

「…キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」